

第5回三重県の中核支援センターの目指すべきあり方研究会議事概要

日 時：平成19年12月5日（月）13：30～14：30

場 所：みえ県民交流センター交流スペース

参加者：

研究会メンバー／浦田宗昭（いせコンビニネット）、吉島隆子、出丸朝代（旧センター運営委員会）、井上淳之典（みえきた市民活動センター）、中盛汀（ウィリアムテルズアップルまちづくりセンター）、竹村浩（三重県子どもNPOサポートセンター）

オブザーバー／前川浩也（伊賀市市民活動支援センター）、川村透（伊勢志摩NPOネットワークの会）

事務局／松野幸雄、中村敏孝、明石須美子（NPO室）

議事概要：

【これまでの議論の確認】

- ・ 今日、話をさせてもらうのが、配った資料で「研究会の目的」と、裏に「三重県の中核となる中間支援組織ビジョン」と、「三重県の中核となる中間支援組織の目指す姿(案)」ということで、裏表含めて2枚の資料をみなさんで確認していただいて、意見があれば最終的にここでまとめていけるといいかなと思います。作業部会のほうで、ある程度まとめさせてもらったんですが、研究会できちんと整理をさせてもらえればと思います。前回の研究会のときには目的を確認して、ビジョンと目指すべき姿の2つは、まだ未確定な部分があったと思いますので、これを中心に見ていきたいと思います。まずは、三重県の中核となる中間組織ビジョン、こちらを前回から少し整理して変更をしているので、もう一度確認させてもらいます。

【研究会の目的について説明】

- ・ 研究会の目的というのをもう一度確認したいと思います。読ませていただきます。「市民やNPOが生き生きと活動する社会の実現のために、私達は自分達の住む地域において考え行動し、責任を果たしていくことが重要です。しかし、市民やNPOなどのいわゆる市民セクターは財政・人材などの活動の基盤、専門的能力のほか社会への参加の機会などにおいて、行政や企業などと肩を並べるところまでは至っていないのが現実です。三重県においても、広域的な分野へのNPOの参画は進みつつありますが、市民やNPOが自らの役割を担っていくためには、まだまだNPO自身の力量不足は否めない状況が続いています。一方、公共サービスの成長を担うのはお役所だけという固定観念は崩れ、自分達でできることは自分達でやるという地域主権の波が私達の生活の中に浸透しつつあります。三重県民交流センターは、開設以来三重県における市民活動の中心的な場所として機能し、私達の活動を大きく発展させる役割を担ってきましたが、県に代わって柔軟な機動力や活動の多様さを持つNPOが引き続きその役割を担うことは、三重県の市民セクターの発展にとって大きな可能性を持つものと言えます。三重県民交流セ

ンターの指定管理者制度導入の検討にあたり、三重県の中核となる中間支援組織が担うべき役割は何かを考えます。」

【三重県の中核となる中間支援組織ビジョンについて説明】

- ・ この研究会の目的をビジョンとして図に表したのが、その裏の三重県の中核となる中間支援組織ビジョンです。一番下を見ていただきたいのですが、現在の姿、矢印があって、目指す姿・望む姿、また矢印があって、最終目的ビジョンとなっていますが、現状と短期・中期的に目指す姿と最終的な将来ビジョンという形で書いてあります。まず現在の姿ですが、一番小さい四角のところで、みえ県民交流センターの運営とNPOの支援、またコーディネート・ネットワークというようなことをしながら進んでいます。それで目指す姿としては、市民活動を広げる・セクター間を繋ぐ・社会全体を変えるというような役割を担うことを目指していきます。更に最終目的として、市民やNPOが生き生きと活動する社会の実現ということを目指します。この真ん中の目指す姿・望む姿というのを具体的に書いたのが別紙でお配りしている「三重県の中核となる中間支援組織の目指す姿(案)」となります。

【意見交換】

- ・ ありがとうございます。目指すべき姿の前提となるビジョンということで説明をしていただきました。こちらのほうは前回から少し変更されている部分もあるので、作業部会では、これで統一させてもらっていると思いますが、何かこのビジョンのところでも質問やわからないところがあればどうですか。
- ・ 今更ですが、目的のところから前から引っかかっていたのですが、下から5行目のところで、県に代わって「引き続き」っていうところを「発展的に」とできませんか。引き続き同じようなことをするなら変わらなくてもいいんじゃないかなと思うので、「NPOでやるからこそ発展していくんだ」という気持ちを出してはどうかと思います。「発展的に」と入れると、この次の行の「市民セクターの発展」がかぶるので、「三重県の市民セクターにとって大きな可能性を持つもの」と下の「発展」を抜いて、上に「引き続き」ではなく「発展的に」と入れてはどうでしょうか。
- ・ その前の行にも「発展させる役割を」という表現が含まれているし、その次の行のところでも「セクターの発展」と言っている。「引き続き」を抜いたほうがいいのかという意見が出されましたが、どうでしょうか。削除してもいいということなら、これで決めていきたいと思います。それでは、「引き続き」という表現を抜いて、「NPOがその役割を担うことは三重県の市民セクターの発展にとって大きな可能性を持つものといえます」という表現に変更ということをお願いします。ビジョンの方はどうですか。それでは、目的も含めてビジョンのところまで何かありましたらお願いします。
- ・ このビジョンは、センターのことを言っているわけではないです。含まれるということでもいいですか。あと質問があれば……。じゃあビジョンはこれでいきたいと思います。最後まで一通りの議論をしたら、オブザーバーの意見を言ってもらえる時間も取りたい

ので、次の「三重県の中核となる中間支援の目指す姿(案)」に移ります。

【三重県の中核となる中間支援組織のめざす姿(案)について】

- ・ 中核となる中間支援組織が担う機能、これは前回から変わらず、「ひろげる・つなぐ・かえる」という3つに大きく分類しています。具体的取組をこの3つに当てはめていますが、全てが何かしらリンクをしているというような感じで捕らえています。まず1番目の「ひろげる」という中では、相談・コンサルティングと資源の発掘ということで、具体的な取り組みとして、相談(市民活動ボランティア相談・団体マネージメント相談など)、資金サポートシステムの展開、市民活動の社会化支援、人材育成というようなものをあげています。2番目の「つなぐ」という機能は、コーディネート、情報の受発信、拠点の運営、ネットワークの構築となっています。具体的な取組としては、NPO・行政・企業相互間のコーディネート(協働など)、情報の受発信支援(団体情報提供など)、人と組織が集まる仕掛け作り、県内の市民活動支援組織の連携強化、みえ災害ボランティア支援センターとの連携を上げています。最後の「かえる」という部分では、政策提言、調査研究ということで、具体的な取り組みとしては、政策提言、市民活動状況や協働の分析・検証、NPOの信頼性向上のための多面的情報収集と提供、行政の事務事業の検証を上げました。右の方の図は、さっきそれぞれリンクしているという話もさせてもらったんですが、図のように企業と行政と市民セクターというのがそれぞれ繋がって、市民セクターが広がっていった社会全体を変えていくというような形を見やすく図に表したものです。これについて何かご意見などはありませんか。オブザーバーの方の意見もいただきながら進めていきたいと思えます。それではオブザーバーの方でわからないところとかがあればどうぞ。

【意見交換】

- ・ 言葉の使い方なんですけど、市民活動の社会化というのはどういうことなんですか。
- ・ 1番の「ひろげる」という中で市民活動の社会化支援ということですね。どなたか説明をお願いします。
- ・ この左側の機能の部分では資源の発掘に入るかと思えます。例えば子育て支援の団体がありますが、自分達が子育て支援をしていると思わないで、絵本を学校で読み語りしているグループとかというのは、自分達が市民活動をしていると思っていないんです。自分たちの活動の、範囲内で治まっている。つまり、社会化がいいかどうかは置いて、そういう団体に自分達が社会的にしている意味というものを気づかせ、広げていくサポートをする。自己満足的にとどまっているものや、生涯学習でも趣味とか自分達が習うというだけでとどまっているものを、もっと社会に広げていくということで、市民活動を社会化して、公益的な活動にしていくという感じです。趣味の会が悪いわけではないですが、本当は社会支援としていろんなところで活用していけるんだと思うんですが、本人たちもその支援を受けている人たちもそういうことを思っていないんです。だから、広報する必要がなかったり、情報を発信する必要もないと思っている。お金も必要ない。

三重県に公共を担う団体が少ないといわれているのは、そういう団体が隠れているからです。ただ今の段階で担うことはあまりできないので、そこを支援するのがこの中間支援組織の役割ではないかという意味でもあります。そうすることによって、社会的な資源を増やしていく。ないものを生み出すということもありますが、あるものを支援することによって社会支援に発展させていくというような感じです。

- ・ まず一つ確認ですが、この三重県の中核となる中間支援組織の目指す姿とかビジョンというのは、誰が読むことを想定して作っているのかということを知りたいのですが。この社会化のところも、私もちょっとわかりにくかったので、何かちょっと注釈がいるのかなと思いました。あるいは、そういうふうになるとシンプルでなくなってくるので、どういう方に読んでわかって欲しい資料として考えているのかを確認したいです。
- ・ 誰に読んでもらうものかということ、一番中心で読んでもらいたいのは三重県の中核となる中間支援組織です。ただ、やはり一般にも見てもらわないといけないということもありますので、ここの表現がわかりにくいというご意見は確かです。ここの研究会では通じる言葉になってしまっているのですが、わかりやすく、もしくは注を付けるなりしたほうがいいのかとは思っていますがどうでしょうか。
- ・ ありがとうございます。
- ・ これの説明をどうしましょうか。その部分はこの研究会で少し話させてもらってよろしいですか。注を入れるか、もっとわかりやすい表現にするかですが。
- ・ たぶん、表現をわかりやすくと言ってもなかなか言葉が長くなったり、説明するのにまた文章が必要になったりすると思うのでこの表の中に収めるには、注で別に下の方に入れる方法を取ったほうがいいのではないかと思います。
- ・ そうですね。たぶんそのほうが私もいいのではないかと思います。ここの部分はスッキリしておきたい気もするので注の形にさせてもらって、この社会化支援というのは確かにわかりにくい表現だと思うので、ここはちょっとわかりやすく注で文章を付けるという方向にして、確定は、この研究会に任せていただけないかと思います。
- ・ 表現をわかりやすくするというので、この中間支援組織が担う機能の一つ一つの項目と具体的な取り組みは、一対一で結びつくのですか。例えば1番の「ひろげる」の相談コンサルティングだと、1番の相談、資金サポートシステムの展開というところは相談コンサルティングになりますよね。資源の発掘というのが市民活動の社会化支援。これは隠れている公益性のある活動を具現化していくというような意味で発掘なのかと、字面だけ見ていると思います。もう一つは人材育成のところ、これも発掘の文字は隠れていて発掘して育成していくのかなというような感じなんです、コンサルティングの具体的な取り組みはこれですよ、資源の発掘の具体的な取り組みはこうですよというふうに整理したほうがわかりやすいような気もするんですが、どうでしょうか。
- ・ 実は「ひろげる・つなぐ・かえる」全部にわたってそうなんです、そこに当てはまるというものでもないというところがあって、当然相談とかをする中から、資源の発掘と

いうのも起こりえるし、コーディネーターに繋がっていくこともあるし、いろいろ繋がりもあるものですから、ちょっと線が引けないところかと思います。本当にわかりやすい部分で「ひろげる・つなぐ・かえる」と分けたのと、具体的な取り組みに関しても相互でやりとりも当然起こってくるということで、線が引きにくく、逆に線を引くことで、概念で押さえつけてしまうことがあるのかと思います。これを見て、中間支援で活動する人たちが自由に動きやすいような分け方をしているので、あんまり狭めないという意図があると思います。

- ・ たぶんそういう意図だと思います。ただ、表にすると一対一に結び付けたくなくなるので、グワッと割るくらいにしておいて、こちらが矢印するような方が何となくわかりやすい。個人的にですが。でもその辺のところはちょっと意見として聞いていただいて、みなさんにお任せしたいと思います。
- ・ ありがとうございます。ご意見いただきました。あと他に何かありますか。
- ・ 説明を入れるというところでなんですが、みえ災害ボランティア支援センターの説明と、その事務事業とかも、要らないかなと思います。あと資金サポートシステムの展開、これは一体どんなものかという説明が欲しいと思います。
- ・ ありがとうございます。そうですね、確かに市民活動っていうのは市民活動専門用語みたいなのところもあるし、行政用語というのもあると思うので、この辺は誰が見てもわかりやすいということを考慮して注釈をつけていかないといけないと思います。この辺はまた整理しないといけないですね。ただ、どの言葉がわかりにくいものなのかというのだけこの場を出しておいたほうがいいですね。それだけ出しておいて、表現は任せてもらうということをお願いします。さっき出たのが「資金サポートシステム」「社会化支援」「みえ防災ボランティア支援センター」「事務事業」。この辺は確かに一般の人が読んだらわかりにくいですね。他にわかりにくいという言葉はないですか。良ければそのあたりの表現を注でわかりやすく表現するというので、文章は作業部会で作ってみてということになると思います。他にはいいですか。「NPOの信頼性向上のための多面的情報収集と提供」という表現も、研究会・作業部会ではだいたい確認してはいたんですが、これも一般の人が聞いて意味がわかりますか。オブザーバーの方、どうですか。これも注釈をつけたほうがいいですね。「市民活動状況や協働の現状分析検証」という表現はどうですか。これはどんな意味に取れますか。
- ・ イメージとしては抽象的に捉えることは大よその所は可能ですが、別の方に説明をしろといわれるとうまくできないかなという感じです。
- ・ ありがとうございます。あとはどうでしょう。
- ・ イメージとしては振り返り会議のことを言うのかと思ったんですが、そのうえの政策提言の前提となる今までの取り組みを考えてみるということをイメージしているのかと思っています。
- ・ 民間的にみたらどうでしょうか。

- ・ 実務で携わると、協働は、ツーカーだったり非常に思い入れのある概念を入れたりするのですが、一般的には協働といわれてもイメージがしにくいと思います。例えば誰と誰とが協働するとか、そういう素朴なところを考えるような気がします。行政とNPOの協働なのかとか、そういうふうに書いてしまうと限定されるのですが、どうしてもマジックワードみたいになってるところがあって、発信する側が使う協働に込めた意味と、受け取る側の協働と実際にやってみたときのイメージとが非常にギャップが多いことがあるので、それをどうしたらいいのかなという気がします。もし何か注釈を入れるのであれば、鍵カッコつきの協働にしておいて、研究会としての伝えたいポイントみたいなものを注釈か別紙みたいにしておくかですね。できる限り正確に伝えようとする。ただし、読めば読むほどわけがわからなくという気がするので、鍵カッコつきの協働として置くぐらいかなと思います。あまりごちゃごちゃ書いても読みたがらないような気がします。それが1点と、研究会の目的も練り上げられてこういう文章になっていると思いますが、これはこれで正式なものであっていいと思いますが、読みやすいのは研究会の目的のところタイトルとして三重県の中核となる中間支援組織の目指す姿という長タイトルを書いて、箇条書き的なあるいは短くてもいいから小見出しみたいなのが付いていて、それについて書いてあるという書式のほうが読み手としては読みやすいのではないかと思います。文章としてはこれでいいと思いますが、受け取る側のことを考えると箇条書き的なスタイルとか、簡略版みたいなものにしていただいたほうが受け取りやすいかなという意見です。
- ・ それではもう一つ前に戻って、市民活動の状況や協働の現状分析、検証というところで、研究会のほうで少し思いみたいなものがありました。
- ・ 市民活動状況や協働の現状分析・検証というのは振り返り会議ではないかという話もありましたが、それも含まれています。検証というのがそのことに当たると思うのですが、おっしゃるように協働のことについてさほど懸念を示されるほどのことは、現状分析できないと思っています。ここにこういう項目をあげた目的は、私達が中間支援組織として目指す姿の中で具体的に何を取り組むかということを行っているわけですから、その中で取り組むべきこととして市民セクターの力がもっと自由に発展していけるようなことのために貢献するというのが最初の狙いですから、市民セクターを社会に知らしめるために何らかをしたいということです。市民活動というのはこれほどのものがありますよということを社会に知らしめていくための窓口を作りたいということで、こんなにもたくさんの団体が企業と、あるいは行政と、あるいはNPO同士が協働してますという事を今あるありとあらゆる情報の切り口からわかるようにしてあげたいというのが意図です。だからそのステージで言うと、この協働の質はどうだった、ああだったというその協働は具体的にどういう協働なのかというのは問題外です。それを見て、社会化され自分達の活動が社会でどういう意味を持つのかということに目覚めて活動をしている人たちが自分達のスキルアップにつなげたり、結果として市民セクターの層の厚さ

につながるということを目指しているのが発言させていただいたときの趣旨です。

- ・ ありがとうございます。どうでしょう、趣旨的には担っていけるところを広げていくという中での中間支援としてのあり方ということだと思います。そんなところで、やはり注釈が必要かなと思います。
- ・ 例えばその思いの部分がどこかに表現されるとわかりやすいと思います。かえるということに関しては、このような思いがあって研究会としてはこういう姿を目指したんだと。あまりいっぱい書いてしまうとわかりにくいですが、何かそういうふうな「かえる」ということについては、思いを端的に表したワンセンテンスみたいなのがあったりすると、もう少し伝えやすくなるかと思いますが、ないものねだりのような気がしますけど。あまりごちゃごちゃ書いてもわからなくなるし、かといってピッタリとした言葉もなかなか思い浮かばないものですから。ただ最終的な成果として出てきた抽象的な文言を見ると、最初のイメージに戻りにくくなるのかなと思います。
- ・ 貴重な意見をありがとうございます。そこの表現は作業部会でも少し整理するといいかもしれないです。
- ・ 今の意見に絡みますが、右側の表の部分で今おっしゃっていた部分の「かえる」というのは社会全体をかえるとおっしゃりたいみたいに、個々のことというのは「ひろげる・つなぐ」のところで、協働もつなぐのところに入れていますが、団体を支援しているわけですから、この部分ではセクター的に見ていく。社会全体やセクターを見ていって、どのように変えていくのかという視野で見ていくということなので、おっしゃっていたことがこのイメージ図だけで解釈できるかわかりにくいですが、そのような視点なのだということです。だから3つとも全部同じようなことを言っているのが難しいですが視点が違うというような感じです。
- ・ それを言葉にするのは難しいと思うんですけどね。確かに簡単な表現が入るとわかりやすいのではないかという意見なので、これはまた少し考えます。
- ・ 一番下の「かえる」の部分のところですが、先ほどの発言にもありましたが市民活動状況や協働の現状分析・検証は振り返りではないかというようなイメージという話がありました。また、NPOの信頼性向上のための多面的情報収集と提供という長い言葉にしましたが、ここには元々は評価という言葉が入っていました。その評価という言葉が一人歩きをすることの懸念があって、評価という言葉をあえて使わないでおこうということが作業部会でかなり議論をして、その結果こういう言葉にかわってるというところがあるものですから、そこのところが、今ご覧になってるみなさんには読み取れない部分なんだろうと思います。評価というのは安易に使ってしまうと非常に危険だというふうに認識をしているものですから、安易に使いたくない。でも、言葉として代わるものもないし、どういうふうに表現をするかというふうに悩んだところで、結局こういうことになったということです。
- ・ 初歩的なことで恐縮ですが、すでに提示されていることだと思いますが、2つ教えてく

ださい。中核となる中間支援組織ということの提示なんです、これはみえ県民交流センターが指定管理者制度を導入したときの組織というか、この場のことを指されるのか、また、県内の中間支援組織がいくつかある中で、その中間支援組織のネットワークでもって中核となっていくのか、その辺りが1点。それから、言葉の使い方で、市民とNPOと市民セクターという言葉が使われているかと思いますが、研究会の目的の中では、市民やNPOなどの市民セクターという表現なので、市民とNPOとで市民セクターというふうに整理されていると思いますが、市民というのは個人で、NPOというのは市民活動団体、ボランティア団体も含めて、NPO法人に限ったことだけではないNPOになるんですかね。もう少し広い意味で公益法人とか地縁団体も含めたNPOまで視野に入れられているのかどうかその辺をちょっと教えてください。

- ・ じゃあ、最初のご質問で、三重県の中核となる中間支援組織というのがどういうことかというところですが、これは特にここのセンターということで考えているものではないです。三重県で中間支援ということをしようとする組織が担う機能とは何だろうという、もっと広い三重県内の分野別のそういったものも含めて、中間支援として県内で中核となるべき姿というところで広く捕らえています。だからここのセンターに限って言っているものではないです。あと、言葉の一つ一つの部分というのは実は、正直研究会ではきちんと議論をしてないんです。言われて気づいたんですが。
- ・ おっしゃったとおりです。市民というのは自律した個人です。単に県民だとか住民だとか言わないで、わざわざ市民というのは自律したという個人、NPOは組織、そしてセクターというのは企業と行政と市民セクターという意味で、セクターの話ですから、誰が入るかということではないです。企業と行政と市民セクター、この社会は3つのセクターに分けることができる。それで一番広く考えれば市民セクターといわれる中には、公益法人、財団法人など、ありとあらゆるものが入ります。企業・行政以外は全部入ります。営利目的以外は全部入るという意味です。それでよろしいでしょうか。議論してこなかったといいますけど、それはもう当然のこととして議論する余地はないと思っていますので、議論する必要はなかったと思います。
- ・ ありがとうございます。自分達もけっこう当たり前のように全然議論もしていませんでした。ご理解いただけましたか。
- ・ 少し狭い意味で、市民社会を作ろうということを考えない財団法人や社団法人を市民セクターとして入れる入れないの論議はあまりしたくない。入れたくない団体になってしまう。今考える市民セクターというのは積極的に社会に対してどう関わるか、ただそれを言い出すとだんだん個々の性格とか問題になってくるので、NPOの中でも同じと思いますが。だから実際にこの中間支援組織がどう支援するかという目先のところというのは、基本的にNPOだと思っています。それでいいですよ。
- ・ 後で説明したのは一般論であって、最初のご質問は彼が説明したとおりで、一つと二つの説明を一つにしないでほしい。私はその気持ちを整理して説明したつもりです。

- ・ わかりました。
- ・ よろしかったですね。あとはよかったですでしょうか。だいたいよければ、少し全体で今回確認をしたいと思います。まず目的の部分が「引き続き」というのを削除するという形になりました。それでビジョンのほうは、特に変更がなかったと思います。それからめざす姿(案)については、言葉のわかりづらい部分に注釈を入れるほうがいいのではないかと、ここで、「資金サポートシステム」「社会化支援」「みえ災害ボランティア支援センター」「市民活動状況や協働の現状分析検証」「NPOの信頼性向上のための多面的情報収集と提供」「行政の事務事業」は、注釈を入れて説明をしたほうがいいだろうというところで、まとまったと思います。あと「ひろげる・つなぐ・かえる」の思いの部分の表現も作業部会で検討することが必要だと思います。だいたい意見が出たのはこの辺だと思います。次回は、1月8日(火)15時からですので、作業部会は13時からやりたいと思います。
- ・ 注釈の案をそれぞれ分担して作成しましょうか。全部で6つ。「ひろげる・つなぐ・かえる」というのも入れて、7つというところでいいかと思います。各作業部会員で考えてきてもらって、字数は100~200字くらいで、ですます調で作るということでよろしいでしょうか。それでは、次回の作業部会でいきなり合わせるとなると、そのあとが研究会になってくるので、メールで共有できるといいですね。26日までということをお願いします。メーリングリストで送ってもらうとみんなが見れるので、それをお願いします。それでは研究会を終わらせてもらいます。

【次回日程】

作業部会 1月8日(火)13:00~
研究会 1月8日(火)15:00~